

(共同リリース)

2015年6月15日
日本エアコミューター株式会社
Avions De Transport Regional G.I.E

日本エアコミューター、ATR42-600 型機の導入を決定



JAL グループの日本エアコミューター株式会社(以下「JAC」)は、JAL グループネットワークの生活・離島路線用の更新機材として、Avions De Transport Regional G.I.E(本社:フランス トールーズ、以下「ATR」)の ATR42-600 型機の導入を決定し、確定 8 機、およびオプション 1 機の購入契約を締結しました。今後、2017 年の運航開始に向けて導入準備を進めてまいります。

【JAC 代表取締役社長 安嶋 新のコメント】

「最新鋭のターボプロップ機である ATR42-600 型機のもつ快適性、経済性および信頼性と、JAC がこれまで 30 年余に渡って築きあげた安全運航体制の融合によって、種子島や屋久島、奄美群島など、鹿児島県の離島をはじめとした西日本の各地をきめ細かく結び、JAL グループの利便性の高いシームレスな航空ネットワークサービスを提供します。」

【ATR 社長兼最高経営責任者(GEO) パトリック・ド・カステルバジャックのコメント】

「厳しい機材選定の過程を経て、私どもの ATR42-600 型機が JAC に選ばれたことを光栄に思っています。ターボプロップ機を含む多くのリージョナル機を運航する日本という市場で、JAC とより強固なパートナーシップを築き上げることにより、ATR が日本の地方航空路線をはじめ全国に展開していくことを確信しています。」

【ATR42-600 型機の概要】

ATR が製造する最新鋭ターボプロップ機です。コックピットはエアバス A380 の技術を取り入れたグラスコックピットに最新の航法機器を装備し、客室内は同クラスのターボプロップ機と比べて手荷物収納スペースが大きく、LED 照明と ARMONIA デザイン(※)によって明るく快適な空間となっています。(※)ARMONIA デザイン : イタリア語で「ハーモニー(調和)」を意味し、イタリアのデザイナー「ジウジアーロ」が設計した客室デザイン。ゆとりある作りが特徴であり、シカゴ・アテネウムのグッドデザイン賞を受賞している。

会社概要

【日本エアコンピューター株式会社(JAC)】

JAL 60%、鹿児島県の奄美群島 12 市町村 40%の出資により 1983 年に設立。鹿児島空港に本社を置き、JAL グループ国内ネットワークの一翼として、奄美群島を中心とした西日本各地を結ぶ路線を運航している。現在は 21 機体制で、27 路線 1 日 141 便を運航し、年間約 180 万人のお客さまにご利用いただいている。

【Avions De Transport Regional G.I.E (ATR)】

フランスのエアバス・グループとイタリアの Alenia Aermacchi の共同事業体として 1981 年に設立されたリージョナル航空機メーカー。生産開始以降、1,500 機以上を受注しており、90 席以下のリージョナル航空機市場を牽引している。現在は 90 か国以上の 190 を超える航空会社にて運航されている。

以上

【参考】ATR42-600 型機諸元(SAAB340 型機 対比)

	ATR42-600	SAAB340
全長	22.7m	19.8m
全幅	24.6m	21.4m
全高	7.6m	7.0m
装備エンジン	PW 社製 PW127M	GE 社製 CT7-9B
巡航速度(km/h)	556	524
座席数(標準仕様)	48	36

問い合わせ先: 日本エアコンピューター株式会社

TEL 0995-58-2151

Avions De Transport Regional G.I.E

TEL +33 6 86 34 21 71